



茨城県支部

1. 令和4年度事業計画

大規模化・頻発化する自然災害や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応など、「**人間のいのちと健康、尊厳を守る**」という使命をかかげる 日本赤十字社の役割は、より一層、重要となっている。

一方、日本赤十字社の活動を支える活動資金の収入状況は、引き続き厳しい状況にあり、今後も、赤十字の活動を維持していくためには、より多くの県民の皆さまからのご理解とご協力を賜り、活動資金確保に努める必要がある。

このことから、令和4年度は以下（１）～（３）を重点として事業を進めていくこととする。

なお、各事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を慎重に判断しながら、オンラインの積極活用などにより、柔軟に対応していくこととする。

- （１）**青少年赤十字創設100周年記念事業の実施**
- （２）**コロナ禍における災害救護活動の充実強化**
- （３）**会員の増強と活動資金の確保**
- （４）**救急法等の講習**
- （５）**赤十字奉仕団**
- （６）**青少年赤十字**
- （７）**国際活動**
- （８）**看護師の養成**
- （９）**デジタル化による業務効率化**

(1) 青少年赤十字創設100周年記念事業の実施

青少年赤十字（JRC）創設100周年（令和4年）にあたり、「未来のあなたへ、やさしさを。」をスローガンに以下の事業を展開し、青少年赤十字活動の更なる充実・強化と活性化を図る。

①特別企画

- ・ 100周年記念茨城県大会（11月2日予定）
- ・ JRCメンバーによる絵画等の作品コンクール及び展示会
- ・ 視察研修（メンバー、指導者）
- ・ 青少年赤十字のシンボルツリーであるイトスギ配布
- ・ 地区JRC指導者協議会への特別助成

②県内統一運動

- ・ 青少年赤十字みんなでアクション！の実施
（例：地域清掃活動、募金活動）
- ・ 活動の様子をポスター化し、参加校に配布

③100周年記念誌発行



※青少年赤十字創設95周年大会（平成30年度）

(2) コロナ禍における災害救護活動の充実強化

コロナ禍においても、感染リスクに配慮した適切な救護活動を行えるよう、支部及び他支部との合同で訓練を実施するとともに、首都直下地震など大規模災害に備え、災害対応能力の強化と救護活動に必要な資機材等の充実を図る。

①訓練：茨城県支部

- ・常備救護班員等災害救護訓練（6月、2月）
- ・支部職員を対象とした災害対策本部運営訓練（年2回）

②訓練：第2ブロック支部

- ・第2ブロック支部総合訓練（10月）
- ・第2ブロック支部先遣要員訓練（2月）
- ・被災地支部災害対策本部運営・支援訓練（2月）

③コロナ感染対策

- ・感染防護具等の取扱い研修（6月、2月）

④整備する主な資機材

- ・コロナ感染症対策としての救護所用携帯型オゾン発生機
- ・エコノミー症候群（肺塞栓症）診断エコー
- ・喉頭鏡（気管挿管等において喉頭を展開する器具）などの医療セット資材の更新



感染防護具を着用しての訓練



エコノミー症候群診断エコー

(3) 会員の増強と活動資金の確保

① 会員増強に向けた広報活動の充実

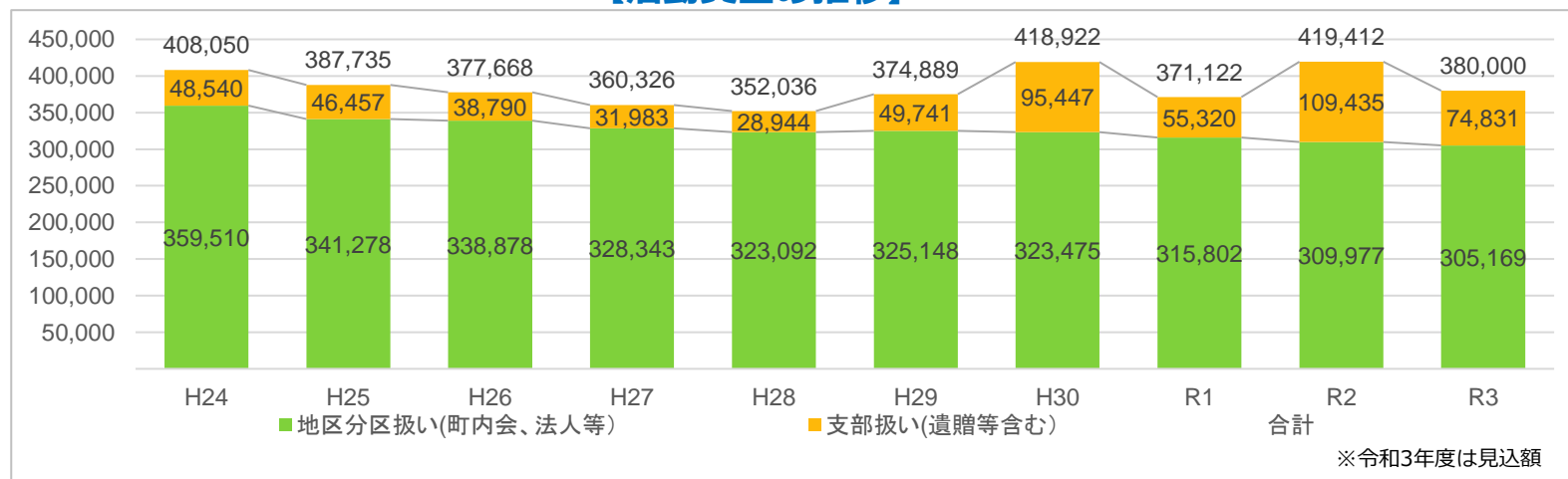
会員や県民の皆さま方に、活動への取り組みや成果等を分かりやすく伝え、共感していただけるよう、様々な媒体を通して広報活動を展開し、支援の拡充を図る。

② 災害からいのちを守る赤十字活動の財源確保

- 大規模化・頻発化の傾向にある災害に対応するため、令和4年度は活動資金目標額を**3億7,500万円**（前年度と同額）とする。

【活動資金の推移】

(単位：千円)



現況と課題

- 活動資金の基盤となる「町内会(世帯)からの活動資金」は、総人口の減少や町内会への未加入世帯の増加等に起因し、下げ止まりに歯止めがかからない。
- 町内会経由の活動資金募集は重視しつつも、減少額を補完するため、多様な募集方法に取り組む必要がある。

(3) 会員の増強と活動資金の確保

- ・令和4年度の目標額を確保するため、以下の5つを柱とし積極的に施策に取り組む。

取り組みの柱	主な施策
地区区分との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地区区分の協力を得て、町内会等を通じて広報紙を配布し、赤十字活動への理解促進や活動資金の協力を呼びかけ ・募集実績が低迷している地区を重点的に支援
既存会員の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙等による事業成果の報告 ・災害発生時は新聞折込や災害速報による救護活動の情報発信
新規会員の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・義援金寄付者等へダイレクトメールによる活動資金協力を依頼 ・個人の祝事記念や法人・団体の周年記念で活動資金協力を依頼 ・クレジットカードやスマホアプリなど非接触型による寄付協力方法の周知
青少年赤十字創設100周年記念特別寄付募集	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年赤十字（JRC）創設100周年を記念し、ダイレクトメールによる特別寄付を募集
遺贈等寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> ・遺贈・相続財産寄付セミナーの開催（年2回） ・広報媒体等による遺贈・相続財産寄付の推進

(4) 救急法等の講習

① オンライン講習の拡充

- ・ 社会環境の変化や多様なニーズに対応するため、オンライン講習を実施し講習普及の拡充を図る。
- ・ 受講者を教職員や保育者、子育て支援者などに特定し、属性に応じた内容でオンライン講習を開催する。

《 講習開催計画 》

種 別	基礎講習		養成講習		短期講習		オンライン講習		合 計	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
救急法	31	830	17	630	120	4,770	170	9,400	338	15,630
水上安全法			8	105	24	1,020			32	1,125
健康生活支援講習			3	30	16	460			19	490
幼児安全法			7	110	50	1,400	34	1,250	91	2,760
合 計	31	830	35	875	210	7,650	204	10,650	480	20,005



※オンライン講習を指導するボランティア



※オンライン講習を受講する親子

② 未来を担う子供たちへ救急法を普及

- ・ 青少年赤十字創設100周年を記念し、小中高校の児童生徒を対象に、積極的に救急法講習を開催し、未来を担う子供たちへ「命と健康の尊さ」を考える機会を提供する。

(5) 赤十字奉仕団

① 奉仕団の結成促進と団員の確保

- ・ 地域奉仕団未結成地区の市（地区）と連携して、奉仕団の結成に取り組む。
- ・ 若年層団員の確保に向け、青少年赤十字高校生メンバーと青年奉仕団員の交流会等を開催する。
- ・ JRC卒業生を対象にSNSを開設し、日赤情報（ニュースレター）を配信し、青年奉仕団や地域奉仕団への加入を促進する。



基礎研修会

② 奉仕団活動の活性化

- ・ 基礎研修会、リーダー研修会等を開催する。
- ・ 奉仕団活動における課題等を地域赤十字奉仕団活動活性化委員会において協議する。

③ 地域防災力向上のための防災・減災への取り組み

- ・ 奉仕団と連携し、地域住民や児童・生徒を対象に防災・減災の知識や技術を普及する。

《地域奉仕団》

30 市	6,278人
12 町村	633人
合 計	6,911人

《特別奉仕団》（令和3年12月31日現在）

特殊奉仕団	8 団	785人
青年奉仕団	3 団	73人
合 計		858人



青少年赤十字高校生メンバーと青年奉仕団員の交流会

(6) 青少年赤十字

① 青少年赤十字創設100周年記念事業の実施

- ・ 青少年赤十字創設100周年記念事業を展開し青少年赤十字活動の更なる充実・強化と活性化を図る。(再掲)
- ・ 記念大会を参集とWEBによる参加のハイブリット型で開催し、大会の模様をYouTubeで公開する。

② 青少年赤十字活動の充実と加盟促進

- ・ リーダーシップ・トレーニング・センター(2泊3日) を中学生、高校生合同で実施する。
- ・ 活動の更なる充実と活性化を図るため、新規加盟校と既存加盟校を対象とした助成を行う。

《青少年赤十字加盟校数》 (令和3年12月31日現在)

幼・保	小学校	中学校	高等学校	特別支援校	合計
8	161	99	75	2	345

③ 国際交流事業の推進

- ・ 青少年赤十字メンバーを対象とした国際交流イベントを開催し、異文化や相手の考え方への理解を深める。



※リーダーシップ・トレーニング・センター



※海外の方と交流する高校生メンバー

(7) 国際活動

① 国際開発協力事業の推進

- ・バングラデシュ赤新月社が主体となって行う、避難民への保健医療支援事業やインドネシア赤十字社が主体となって行うコミュニティ防災強化事業に資金援助を行う。

② 海外たすけあい募金キャンペーンの実施

- ・紛争や災害、病気で苦しんでいる世界各地の人々を支援する募金キャンペーンを実施する。



※難民自らがボランティアとして、キャンプに住む人々へ、感染症予防を普及

(8) 看護師の養成

日赤看護大学生に対する奨学金貸与

- ・日赤看護大学に在籍し、卒業後は茨城県内の赤十字病院への就職を目指す学生を支援するため、引き続き11名の学生に対し奨学金を貸与する。

(9) デジタル化による業務効率化

- ・電子決裁の段階的導入や各種申請のデジタル化によるペーパーレス化を図るほか、講習の申込手続き等のデジタル化を導入する。
- ・業務のデジタル化を推進することを目的に、支部・管内施設によるデジタル推進検討会（仮称）を設置する。



※日赤看護大学での実習

2. 令和4年度歳入歳出予算

(1) 歳入予算

(単位：千円)

科 目	R 4 予算	R 3 予算	増 減	R4予算の主なものなど
社資収入	375,000	375,000	0	・ 一般社資（個人受付分） 330,000 ・ 法人社資（法人受付分） 45,000
補助金及び交付金収入	2,351	558	1,793	・ 本社主催会議への出席に係る旅費助成金 549 ・ 本社から支部に対する補助金 1,802
繰入金収入	1,000	2,400	△1,400	・ 国際活動のための特別会計からの繰入金 バングラデシュ保健医療支援事業 500 インドネシアコミュニティ防災支援事業 500
資産収入	2	2	0	・ 地代収入（電柱1本）
雑収入	6,032	9,850	△3,818	・ 講習会等負担金収入 5,542 ・ その他雑収入 490
前年度繰越金	(※) 87,175	86,520	655	
合 計	471,560	474,330	△2,770	

(※) 令和3年度決算見込

514,933千円 (歳入) - 427,758千円 (歳出) = 87,175千円 (令和4年度への繰越金)

(2) 歳出予算

(単位：千円)

科 目	R4 予算	R3 予算	増 減	R4予算の主な事業など
災害救護事業費	56,487	59,357	△2,870	<ul style="list-style-type: none"> ・災害救護訓練等経費 3,948 ・救護資機材購入費 23,013 救護所用携帯型オゾン発生機、エコノミー症候群診断エコー、喉頭鏡、布団セット、無線点検など
社会活動費	72,376	66,259	6,117	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法等講習経費 32,578 ・JRC創設100周年記念事業 8,089
国際活動費	1,051	1,051	0	<ul style="list-style-type: none"> ・バングラデシュ保健医療支援事業 500 ・インドネシアコミュニティ防災支援事業 500
指定事業地方振興費	8,800	10,800	△2,000	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村への救護装備配備事業等 8,800 災害救援車、倉庫、テントなど
地区分区交付金	61,000	61,200	△200	
社業振興費	59,202	60,708	△1,506	<ul style="list-style-type: none"> ・社資募集関係資材作成費 4,025 ・遺贈・相続財産寄付受付の推進関係費 1,570 ・広報誌発行、広報動画作成 17,875
基盤整備交付金 ・補助金	300	0	300	<ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字学園への補助金 ※災害救護事業費からの科目の変更による
積 立 金	59,701	59,572	129	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等資金積立金 25,000 ・施設整備準備資金積立金 25,000
総務管理費	76,107	77,917	△1,810	<ul style="list-style-type: none"> ・採用試験経費（事業紹介動画作成） 2,228 ・人件費、社会保険料、職員健康管理費他
資産取得及び 資産管理費	19,626	20,781	△1,155	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎メンテナンス費 14,000 エアコン修繕、トイレ洋式化、網戸修繕など
本社送納金	53,910	53,685	225	
予 備 費	3,000	3,000	0	
合 計	471,560	474,330	△2,770	

令和4年度事業計画 及び医療特別会計歳入歳出予算



水戸赤十字病院

1. 令和4年度事業計画

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：442床 実働病床：342床

②診療科 24診療科

③特 徴

- ・基幹災害拠点病院
- ・第二次救急医療施設
- ・茨城県がん診療指定病院
- ・IIR診療拠点病院
- ・基幹型臨床研修病院
- ・緩和ケア病棟
- ・人間ドック施設 等
- ・地域医療支援病院
- ・地域周産期母子医療センター
- ・地域リハビリテーション広域支援センター
- ・第二種感染症指定医療機関
- ・病院機能評価認定施設
- ・地域包括ケア病棟

④職員数 677人(常勤換算数)

医師：80人 看護師：358人 医療技術者：93人 その他：146人

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

①入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として専用病床を整備、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和3年度 入院状況〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
患者数	278	637	278	97	949	624	126	0	2,989

②帰国者・接触者外来

保健所からのPCR検査要請に対応すべく、帰国者・接触者外来を設置し、多数の検査を実施した。

〔令和3年度 帰国者・接触者外来〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
患者数	393	331	79	254	617	339	36	8	2,057

(3) 重要施策

- ① 地域医療構想への対応
- ② 医師の確保
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策
- ④ 100周年記念事業
- ⑤ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

(3) 重要施策

① 地域医療構想への対応

- ・ 今後の医療介護需要の増大と疾病構造の変化に対応するため、2025年における医療需要と必要病床数が茨城県から示されていることから、当院においても茨城県や水戸市、日赤本社との連携体制を強化しながら、水戸保健医療圏の二ーズにあった医療提供体制の検討を加速する。

※令和4年4月には、新たな組織を立ち上げ、新病棟の建築計画などにも着手する。

② 医師の確保

- ・ 医療提供体制の維持・充実を図るため、専門の人材紹介会社を活用したリクルート活動とともに、日赤本社と一体となり、大学への働きかけを強化するなど医師確保に全力を注ぐ。

※令和4年4月には、新たに医師3名（消化器内科、形成外科、眼科）の採用が内定している。

- ・ 茨城県の医師派遣調整事業に応募し、県地域医療対策協議会での審議の結果、当院への小児科医師派遣を大学医局に要請することが承認された。

※令和4年2月には、大学からの最終的な派遣の可否が決定する。

③新型コロナウイルス感染症対策

- ・専用病床を最大85床へと拡大、更なる感染拡大に対応可能な体制を整備するとともに、院内感染の防止に万全を期す。
- ・新型コロナウイルスワクチンについては、令和3年12月から医療従事者向け3回目追加接種を、この1月31日からは一般向け接種を開始した。

④100周年記念事業

- ・当院は令和5年6月14日に創立100周年を迎えることから、100周年事業に向けて、来年度は新たに専門の部署を設置し、記念式典・記念講演の開催や記念樹の植樹、記念誌の発行等の準備を進める。

<100周年事業 記念式典／記念講演／祝賀会>

●日付：令和5年6月10日（土）●場所：水戸プラザホテル

●参集範囲：本社社長等、県支部長、日赤東部ブロック20病院の院長、事務部長及び看護部長等

●来賓：茨城県知事、水戸市長等、県及び各市郡医師会長及び連携病院院長等

※計300名程度の参加を想定

⑤DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・稟議書や報告書及び各種院内手続きのペーパーレス化を進める。
- ・院内WiFiの整備による業務の効率化や患者・来院者サービスの向上を図る。
- ・全ての押印文書の見直しによるハンコレス化、給与明細のweb化、テレワークなどの取り組みを推進する。

(4) 重要指標 ※コロナ病床30床を前提

① 1日平均患者数

外来患者

単位：人

R 4年度計画	760
R3年度計画	780
R3年度決算見込	752

入院患者

単位：人

R 4年度計画	230
R3年度計画	250
R3年度決算見込	206

② 1人1日当り患者収益

外来患者

単位：円

R 4年度計画	20,200
R3年度計画	19,400
R3年度決算見込	19,675

入院患者

単位：円

R 4年度計画	62,900
R3年度計画	58,400
R3年度決算見込	60,859

2. 令和4年度歳入歳出予算

・収益的収入及び支出

①病院収益

単位：千円

	入院診療収益	外来診療収益	その他の 医業収益	医業外収益等	合計
R4年度予算（案）	5,280,455	3,730,536	327,562	318,586	9,657,139
R3年度予算	5,329,000	3,661,944	374,295	268,963	9,634,202
R3年度決算見込※	4,431,357	3,702,455	324,105	2,364,078	10,821,995

※令和3年度の決算収入については、新型コロナウイルス対策費用として、国から約20億円の補助金が交付される見込みであることから、予算額を上回る見込み。

・収益的収入及び支出

②病院費用

単位：千円

	材料費	給与費	その他の 医業費用	医業外費用等	合計
R4年度予算（案）	2,518,914	5,164,395	1,773,197	197,246	9,653,752
R3年度予算	2,745,578	5,194,334	1,475,150	215,968	9,631,030
R3年度決算見込	2,498,452	5,141,669	1,826,696	266,266	9,733,083

・収益的収入及び支出

③収支差引

単位：千円

	収 入	支 出	差 引
R4年度予算（案）	9,657,139	9,653,752	3,387
R3年度予算	9,634,202	9,631,030	3,172
R3年度決算見込※	10,821,995	9,733,083	1,088,912

※令和3年度の決算収入については、新型コロナウイルス対策費用として、国から約20億円の補助金が交付される見込みであることから、予算額を上回る見込み。

令和4年度事業計画 及び医療特別会計歳入歳出予算

.....



古河赤十字病院

1. 令和4年度事業計画

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：200床 実働病床：200床

②診療科 25診療科

③特 徴

- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 地域包括ケア病棟（50床）
- ・ 救急救命士実習病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 病院群輪番制病院
- ・ 小児救急二次輪番病院
- ・ 在宅医療参入促進連絡医療機関
- ・ 自治医科大学地域臨床教育センター
- ・ 難病医療協力病院 他

④職員数 334人(常勤数)

医 師： 27人

医療技術者：67人

看護師：176人

その他： 64人

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

①入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として専用病床を整備、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和3年度 入院状況〕

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
患者数	349	521	335	140	957	371	3	9	2,685

②帰国者・発熱外来

保健所からのPCR検査要請に対応すべく、帰国者・接触者外来を設置し、多数の検査を実施した。

〔令和3年度 帰国者・発熱外来〕

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
患者数	192	205	55	142	414	127	22	21	1,178

(3) 重要施策

【医業収益の改善対策】

- ① 外来患者増・外来からの入院増に向けた改善
- ② 紹介患者増に向けた改善
- ③ 救急受け入れの改善
- ④ 病院事務の効率化

(3) 重要施策

【医業収益の改善対策】

① 外来患者増・外来からの入院増に向けた改善

- ・ 常勤医に対して、外来・救急外来における入院患者確保の働きかけを行う。
- ・ 形成外科、心臓血管外科のチームによる下肢静脈疾患の治療を開始する。
- ・ 第2種感染症指定病院として、当院の職員がより高いレベルで感染防止対策を行っていることを広報し、患者が安心して受診できる雰囲気づくりに努める。
- ・ ホームページ、広報誌を利用して、現在は平常診療に戻ったことを近隣の医療機関や地域住民に対しPRする。

② 紹介患者増に向けた改善

- ・ 担当医師を伴ってクリニックへの訪問を行い、紹介患者数増をお願いをする。
- ・ クリニックからの依頼により予約なしでCT・MRIの検査を行う体制を拡充する。
- ・ 新たに導入した医療機器など、医療の質の向上を中心とした広報を強化する。

③救急受け入れの改善

- ・ 救急依頼を断らない非常勤日当直医」の雇用検討を再開する。
- ・ 受入改善に向けて消防本部への情報提供の頻度を今後、高めていく。

④病院事務の効率化

- ・ 給与明細及び出張旅費請求のweb化によりペーパーレス化を進め、またオンライン資格確認導入による保険証確認作業等事務の効率化を図る。
- ・ キャッシュレス化を進めにあたり、まず健診センター窓口業務から導入を図る。
- ・ 院内WiFiの整備による業務の効率化を図る。

(4) 重要指標

① 1日平均患者数

①外来

単位：人

R4年度計画	440
R3年度計画	450
R3年度決算見込	420

②入院

単位：人

R4年度計画	154
R3年度計画	160
R3年度決算見込	122

② 1人1日当り患者収益

①外来

単位：円

R4年度計画	12,600
R3年度計画	11,800
R3年度決算見込	12,500

②入院

単位：円

R4年度計画	49,700
R3年度計画	46,200
R3年度決算見込	51,000

2. 令和4年度歳入歳出予算

- ・収益的収入及び支出 ※本社指示によりコロナ感染症の影響は見込まない

①病院収益

単位：千円

	入院診療収益	外来診療収益	その他の 医業収益	医業外収益等	合計
R4年度予算（案）	2,793,637	1,474,704	349,920	103,780	4,722,041
R3年度予算	2,698,080	1,401,840	357,025	72,046	4,528,991
R3年度決算見込 ※	2,271,030	1,386,000	334,917	1,407,153	5,399,100

※令和3年度の決算収入については、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金等補助金収益として12億円が国から交付される見込みであることから、予算額を上回ると見込まれる。

・収益的収入及び支出 ※本社指示によりコロナ感染症の影響は見込まない

②病院費用

単位：千円

	材料費	給与費	その他の 医業費用	医業外費用等	合計
R4年度予算(案)	845,231	2,674,757	1,097,995	103,663	4,721,646
R3年度予算	882,470	2,554,410	999,316	91,346	4,527,542
R3年度決算見込	800,666	2,710,282	997,099	111,622	4,619,669

・収益的収入及び支出 ※本社指示によりコロナ感染症の影響は見込まない

③収支差引

単位：千円

	収 入	支 出	差 引
R4年度予算（案）	4,722,041	4,721,646	395
R3年度予算	4,528,991	4,527,542	1,449
R3年度決算見込※	5,399,100	4,619,669	779,431

※令和3年度の決算収入については、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金等補助金収益として12億円が国から交付される見込みであることから、予算額を上回ると見込まれる。

令和4年度事業計画 及び社会福祉施設特別会計歳入 歳出予算

.....



支部乳児院

1. 令和4年度事業計画

(1) 乳児院の概要

①児童福祉法に基づき設立・認可

- ・ 家庭の様々な事情のため養育困難な乳幼児を、県内の児童相談所より措置、一時保護として預かり、昼夜にわたり必要な期間養育を行う。

②入所児定員 38人

③職員数 45人

医 師：1人 嘱託医：1人

看護師・保育士：33人

栄養士：1人 その他：9人

(2) 重要施策

①新型コロナウイルス感染症対策

- ・入所予定児へのPCR検査を実施する。
- ・保護者の面会時には、2週間前から行動記録及び検温を実施する。

②広く地域に開かれた子育て支援事業

- ・一般の子育て家庭に対して役立つ情報（ベビーマッサージの方法など）を提供し、地域の子どもたちの健やかな成長の支援を行う。

※新型コロナウイルス感染症の状況による。

③地域社会に不可欠な施設としての存在意義

- ・子育て短期支援事業（ショートステイ）
- ・保育実習生の受入（保育士、看護師）

※新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、事業を実施する。

④施設が有している資源の活用

- ・県内乳児院に、幼児安全法を実施する。
- ・県児童福祉施設協議会主催の行事等開催時、救護のため看護師を派遣する。

⑤職員の質の向上と人材育成

- ・各種研修会への参加

2. 令和4年度歳入歳出予算の概要

(1) 収入及び支出

(単位：千円)

	収 入	支 出	差 引
R4年度予算	(※1) 393,640	339,383	54,257
R3年度予算	383,395	303,063	80,332
R3年度決算見込	387,108	304,331	(※2) 82,777

(※1) 令和4年度の収入には、令和3年度決算見込差引額 (※2) 82,777千円が含まれます。

令和4年度事業計画



茨城県
赤十字血液センター



1. 令和4年度事業計画

(1) センターの現状

- ・施設 : 血液センター（茨城町） 供給出張所（つくば市）
献血ルーム（つくば市・水戸市）
- ・職員数 : 正規職員 112名 常勤嘱託等 56名
- ・車両 : 移動採血車 7台 血液運搬車 15台
その他車両 17台

(2) 主な事業内容

① 需給管理機能の向上

- ・ 血液製剤の安定した在庫量を保有し、医療機関の需要に対する安定供給の確保
- ・ 医療機関からの情報収集による高精度な需要及び在庫予測の実現

② 効率的な献血の推進

- ・ コロナ禍における効果的な献血推進活動の展開
- ・ ラブラッドの活用等による予約献血の更なる推進
- ・ 企業・学校・団体への献血協力依頼の強化
- ・ 成分採血における1本当当たりの採血量の増量

③ 供給体制の改善の推進

- ・ 定時配送率の向上とWeb受注システムの導入促進

(3) 採血計画

(単位：本)

項 目	令和 4 年度計画 (A)	令和 3 年度計画 (B)	令和 3 年度実績見込	対前年計画比 (A) / (B)
計画数 (合計)	103,556	102,563	104,876	101.0%
(内訳) 200mL献血	2,305	2,835	2,891	81.3%
400mL献血	70,972	68,741	70,296	103.2%
血漿献血	23,735	24,752	25,022	95.9%
血小板献血	6,544	6,235	6,667	105.0%

(4) 供給計画

(単位：200mL換算)

項 目	令和 4 年度計画 (A)	令和 3 年度計画 (B)	令和 3 年度実績見込	対前年計画比 (A) / (B)
計画数 (合計)	328,970	324,790	333,313	101.3%
(内訳) 赤血球製剤	130,950	130,190	133,032	100.6%
血漿製剤	34,170	33,250	33,396	102.8%
血小板製剤	163,850	161,350	166,884	101.5%

(5) 原料血漿確保計画

(単位：リットル)

項 目	令和 4 年度計画 (A)	令和 3 年度計画 (B)	令和 3 年度実績見込	対前年計画比 (A) / (B)
確保目標量	28,426	29,245	32,130	97.2%